

城南信金本店で開かれた商談会。品川区で



### 大田の企業4社と 中小企業救済へ 日東工器が商談会

城南信金本店で

新型コロナウイルスの感染拡大で経営への影響が出ている中小企業を支援しようと、機械工業大手の日東工器（大田区仲池上）は七日、品川区の城南信用金庫本店で、もの作りに携わる大田区の企業四社と商談会を開き、新たな部品の発注や技術・販売協力を検討した。

上場企業が、社会貢献として地元企業救済のため取引を提案するのは珍しいと

いう。この日は、日東工器の業務につながる技術を持つ四社が参加し、約四十五分間ずつ話し合った。

部品の一部製作の提案があったという自動車用電池部品メーカーのヤシマ（大田区西六郷）の箕浦裕社長は「自社の技術力も認められ、これをきっかけにいろんな展開ができそうだ」と笑顔を見せた。

大田区に本社を置く日東工器は、中国から部品の供給が一時止まるなどコロナの影響を受けたが「地元に助けられて成長した会社だ。景気悪化による中小企業の受注や売り上げ減少を打開するため、力になりたい」と城南信金に相談を持ち掛け、商談会が実現した。日東工器の小形明誠社長は「技術力・生産力・営業力を総動員して、この危機を乗り越えたい」と話した。

城南信金の川本恭治理事長は「新型コロナウイルスの影響を受け通常の三倍近い相談が寄せられている。地域を守るのが信用金庫の役割」と話した。（市川千晴）

※東京新聞の使用許諾済（許諾番号13908）